

2024年(令和6年)

7月例会

日時：7月20日(土)14時より

(オンライン方式での開催、Zoom URLは後日配信)

講師：淑明女子大学校 金志映

ディスカッサント：東京大学(院) 鄭スビン

※発表45分+ディスカッサントによるコメント(20分)+質疑応答

題目：「K文学」の越境と翻訳のポリティクス

——日本における韓国フェミニズム文学の受容をめぐって——

司会：東京大学 佐々木悠介

9月例会

日時：9月21日(土)14時より

会場：早稲田大学戸山キャンパス33号館6階 第11会議室

講師：日本大学(元教授) 梅本順子

題目：メイベル・L・トッドの異文化理解

——日本滞在を中心に——

司会：日本女子大学(名誉教授) ソートン不破直子

INSIDE THIS ISSUE

1. 7月・9月例会案内
2. 例会要旨等
3. 例会会場案内
4. 東京支部短信

幹事会開催のお知らせ

第2回幹事会：

2024年7月例会終了後、オンライン方式で開催します(幹事会構成員は、幹事、支部長、事務局長、各種委員会委員長、会計、会計監査です)

役員連絡会開催について

2024年9月例会終了後、対面とオンラインのハイフレックス方式で開催します。(役員連絡会の構成員は支部長、事務局長、会計を含む事務局委員、各種委員会委員長です。委員会の委員、幹事は含まれませんが、陪席を歓迎します)

※ZoomミーティングのURLについては、開催1週間前にお知らせします。

7月例会発表要旨

「K文学」の越境と翻訳のポリティクス ——日本における韓国フェミニズム文学の受容をめぐる——

淑明女子大学校 金志映

本発表では、2010年代半ば以降に日本で活発化した「K文学」（韓国文学）の受容をめぐる翻訳のポリティクスを考察する。

日本における「K文学」受容の本格的な始まりは、二つの象徴的な出来事によって印象づけられた。2018年12月に出版されたチョ・ナムジュの小説『82年生まれ、キム・ジヨン』の日本語版（斎藤真理子訳、原著2016年）は、わずか2年足らずで異例の20万部を売り上げ、韓国の小説としては初めてベストセラー入りを果たした。さらに日韓の作品や翻訳者の対談を載せた特集「韓国・フェミニズム・日本」を組んだ雑誌『文藝』2019年秋号は、86年ぶりに二度の増刷を行い話題を集めた。以後、現在に至るまで日本で翻訳される韓国文学の作品数は著しく増加し、対象となる時代やジャンルも多様化するなど、「K文学」の受容は活発な展開を見せている。

よく知られるように、日本における「K文学」の受容にはフェミニズム的なテーマへの読者の共感が深く関わっている。2015年の所謂「フェミニズム・リブート」以降の韓国文学は女性やマイノリティに寄り添い、差別と偏見に抗うフェミニスト／クィア的想像力を様々に模索しており、なかでも実験的傾向が最も先鋭化しているSFジャンルを含めて、「K文学」の動向はほとんど時差を置かずに日本に紹介されている。一方、日本における「K文学」の翻訳と受容には、2000年代以降に大きく進んだ「韓流」文化の流入や日韓の間の人的交流、翻訳出版を後押しする支援制度や翻訳者の拡充など複数の要因が作用しており、これらは翻訳テキストが産出される土壌や翻訳の戦略にも影響しているように見受けられる。本発表では、日本における「K文学」の受容を概観し、テキストの越境にいかなる力学が働いたのかを文化翻訳的な観点から読み解く。その上で、フェミニズム／SF小説の翻訳の具体例を取り上げ、翻訳者の役割にも注目しつつ、翻訳テキストが生成される現場に光を当てる。これにより、翻訳を原作に従属するものとする観方を脱し、「K文学」の翻訳が異文化やジェンダーをめぐる様々な政治力学がぶつかり交渉し合う実践的な対話の場であることを示したい。

9月例会発表要旨

メイベル・L・トッドの異文化理解 ——日本滞在を中心に——

日本大学（元教授） 梅本順子

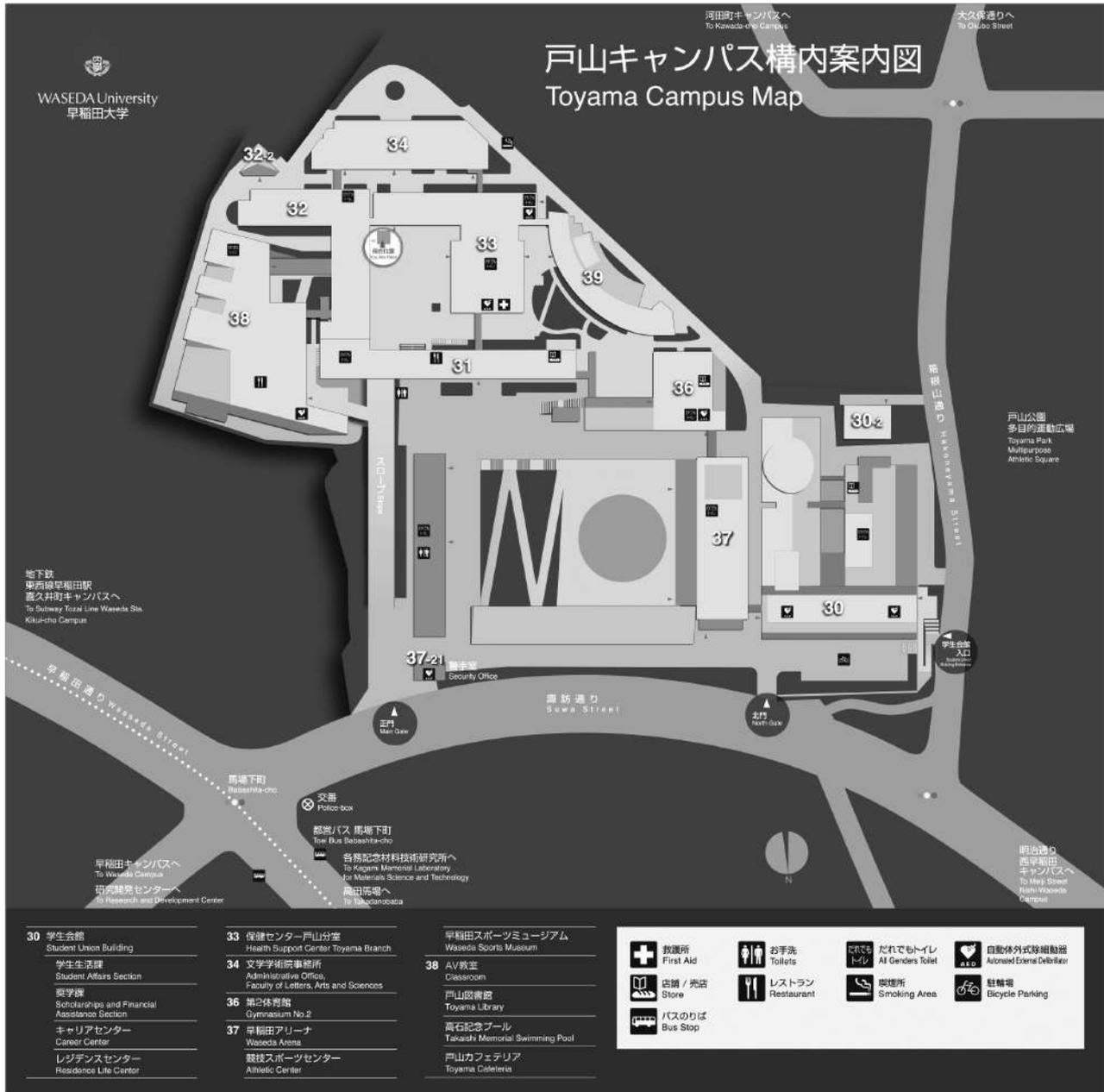
メイベル・L・トッド (Mabel Loomis Todd, 1856-1932) は、生前その詩作が限られた人しか知られていなかった、エミリー・ディキンソンの詩を編集し、出版した最初の人物として知られているが、今回の発表では、天文学者の夫の皆既日食観測に同行して海外を訪問するにあたり、その地の文化をどのように理解し、またそれをどのように発信したかをたどることにより、メイベルにとっての異文化理解とはどのようなものであったかを検証する。特に、1887年の白河と1896年の北海道の北見地方の枝幸という日本訪問から得たものが大きかったことは、晩年のフロリダの住居を「マツバ」と名付け、池に鯉を泳がせ、人力車をアメリカに持ち帰ったことなどからもうかがわれる。また、北海道からの帰国後、夫と連名ではあるものの、枝幸に蔵書千冊あまりを寄贈し、北海道初の公立図書館設立のきっかけをつくっているのである。

二度目の北海道の枝幸を目指す旅（夫とは別行動で単独北海道を目指した）の途中、ならびに枝幸滞在中は、アイヌ部落を中心に訪問していた。同化政策の中で日本式教育を受けたアイヌの青少年の問題に着目し、香深の労働者の歌（民謡）を楽譜として書き起こすなどの活動からは、マイノリティへの理解を示し、異文化に対し西洋基準を当てはめようとはしない、文化相対主義的な一面がうかがわれる。二度目の来日体験を綴ったエッセイをまとめて出版した『皆既日食とコロネット号』(Corona and Coronet)により、メイベルの体験の概要とともに、どのような気持ちで未知の文化に触れ、吸収していったかを追う。それに加え、冒頭で触れたような、メイベルの編集者としての体験、あるいはさまざまな社会貢献事業に関わった体験が、彼女の異文化理解を可能にするに至ったかについても触れたいと思う。

9月例会会場

9月例会は早稲田大学戸山キャンパス（文学学術院）で開催されます（下図参照）。
 キャンパス内については、当日の掲示にしたがってお進みください。

<https://waseda.app.box.com/s/lwwbo30xn58b1mjoahvthnmbrad5xqrm>



東京支部短信

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』への投稿について

電子版『日本比較文学会東京支部研究報告』は、毎年一回、3月末日に発行されます。研究論文投稿資格を有する者は当面、東京支部会員のすべてとします。なお、多くの大学、研究機関では電子的な方法で発表された論文についても、正規の研究業績として認められています。投稿論文の提出期間は11月1日から11月30日まで、送付先は下記の通りです。ふるって投稿ください。お待ちしております。

日本比較文学会東京支部編集委員会委員長 椎名正博 pegasus@w2.dion.ne.jp

詳しい投稿規定および執筆要領、投稿用のテンプレートは東京支部ホームページに掲載されていますので、どうぞご覧ください。ご質問がある方は支部事務局に電子メールでお問い合わせください。

月例会発表者募集

支部月例会の発表者を募集しています。申し込みは支部事務局(hikaku.tokyo@gmail.com)に氏名、所属、題目、連絡先(メールアドレス、電話)を明記したうえで、600～800字の要旨を添えて電子メールで送信、または郵送でお願いいたします。支部役員に託されても結構です。発表時間は45分(質疑応答を除く)です。

支部からのお知らせ

今年度の比較文学会全国大会も盛況のうちに幕を閉じましたが、来年度は東京工業大学(2024年10月から東京科学大学)で6月7日～8日に開催予定です。また、2025年のICLA大会はソウルの東国大学校で7月28日～8月1日まで予定されています。東京支部からも多くの会員の方に発表または参加いただければ幸いです。

東京支部事務局より「お知らせ」の配信について

東京支部では支部会員のみなさまにメールマガジンの「お知らせ」をお届けしています。原則として毎月1日発行で、例会や支部大会などの情報を掲載しています。これまでお手元に届いていない方は、日本比較文学会東京支部の支部会員のページの「お知らせ」のウェブサイト(<https://www.hikakutokyo.com/mm>)のフォームにご記入のうえ「配信希望」をクリックして下さい。メールアドレス変更の場合も、お手数ですが、新アドレスで再登録をお願いします。

日本比較文学会東京支部ニュースレター 144号

発行人：宗形 賢二（支部長代行）

編集委員会（編集担当）

委員長：椎名 正博

委員：岩下 弘史 亀井 伸治 越野 剛 庄子 ひとみ 鈴木 美穂
中垣 恒太郎

事務局 事務局長：宗形 賢二 会計担当：土田 久美子

事務局委員：小泉 泉 芳賀 理彦 畑中 健二 蒔田 裕美

JCLA

日本比較文学会東京支部

事務局住所

〒411-8588

静岡県三島市文教町 1-9-18

日本大学国際関係学部

三島駅北口校舎 607研究室(宗形賢二)

TEL：055-980-1924

E-mail: hikaku.tokyo@gmail.com